1　会場の様子
2　レクチャーシップの表彰楯を手にするキーン博士（右）と総長（左）
3　講演する鳥越博士

名古屋大学レクチャー2012「日本文学と日本文化をめぐって語る」が、2月11日(土)、豊田講堂において開催されました。

同レクチャーは、本学が主催する重要な講演会の一つで、分野を問わず、世界的に高名な研究者の講演を広く一般の方々に公開し、現代世界の最高の「知」に触れていただくために行われるもので、講演者には、名古屋大学レクチャラーの称号及び表彰楯が授与されます。

７回目となった今回は、日本文学研究の第一人者であり、文化勲章受章者のドナルド・キーン コロンビア大学名誉教授を招きました。キーン博士の功績は多岐にわたりますが、能･狂言･人形浄瑠璃・歌舞伎などの演劇を文学史に組み入れ、文学をはじめ日本文化全体について極めて優れた言論を展開してきました。

当日は、まず濵口総長があいさつを行い、その後、安藤高等研究院副院長が、レクチャーの趣旨と講師であるキーン博士、鳥越文蔵早稲田大学名誉教授について紹介しました。次いで、鳥越博士が、「日本文化における芸能」と題し、キーン博士との親交のエピソードに触れながら、浄瑠璃「曽根崎心中」等に関する博士の業績について紹介しました。鳥越博士は能、狂言、浄瑠璃、歌舞伎研究の第一人者で、現在早稲田大学演劇博物館顧問を務めています。

続いて、キーン博士が「世界の中の日本文学」と題し、日本文学が翻訳を通じていかに世界に広まってきたか、また世界の文学とともに日本文学がいかに発展したかについて、自身の研究生活を振り返りながら話し、日本書記から村上春樹までの日本文学の歴史やその魅力について分かりやすく解説しました。

その後、名古屋大学レクチャラーの称号の授与式及び表彰楯の贈呈式が執り行われました。総長からキーン博士に「聖人が現れ、平和で学問が尊重される世の中になる前兆」とされる「麒麟」をモチーフにデザインされた名古屋大学レクチャーシップの表彰楯が贈呈されました。

最後に、高等研究院アカデミー会員である佐藤彰一文学研究科特任教授によるレクチャー全体の総括があり、大盛況のうちに終了しました。

今回は、本学教職員、一般の方々など1,000名以上が参加し、熱気溢れる講演会となりました。参加者からは、「感銘を受けた」、「心に響く講演でした」などといった感想が多数寄せられました。